

1. 会議の経緯

国土交通省道路局では、「学」の知恵、「産」の技術を幅広い範囲で融合することにより、道路政策の質の向上に資するため、H16より「新道路技術会議」を設置。

1) 会議の沿革

- ・平成16年10月に第1回会議開催
- ・平成19年9月の第6回会議より、2分科会制（ソフト、ハード）導入
- ・平成22年度までに14回開催（各年度2回）し、29件の研究課題を採択

2) 応募・採択の経緯

| 年度 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 |
|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 応募数（件） | 59 | 52 | 42 | 50 | 39 | 50 | - |
| 採択数（件） | 8 | 3 | 3 | 5 | 6 | 4 | |
| 実施数[新規+継続]（件） | 8 | 11 | 14 | 11 | 14 | 14 | 9 |
| 予算額（百万円） | 131 | 176 | 195 | 150 | 150 | 148 | 123 |

H20よりFS研究を採択。なお、H21のFS研究（1件）は単年度で打ち切り。

2. 技術研究開発のテーマ設定・採択・評価の流れ

「10の政策領域」に「3つの公募タイプ」を組み合わせ、幅広い技術研究開発を対象として公募を実施（研究期間は1～3年間以内）。また、H22よりタイプ「特定課題対応型」（H22は無電柱化推進）を設定。なお、公募タイプ～において、研究の本格採択にあたり事前に実行可能性や具体的方途等について検討・分析を行う「革新的研究調査（FS）」を設定（研究期間は1年間とし、1年後に研究課題の本格採択の是非を審査）。

1) 10の政策領域

- (1)新たな行政システムの創造
- (2)道路ネットワークの形成と有効活用
- (3)新たな情報サービスと利用者満足度向上
- (4)コスト構造改革
- (5)美しい景観と快適で質の高い道空間の創出
- (6)交通事故対策
- (7)防災・災害復旧対策
- (8)道路資産の保全
- (9)沿道環境、生活環境
- (10)自然環境、地球環境

2) 3つの公募タイプ

| 公募タイプ | タイプ 政策実現型 | タイプ 技術ブレイクスルー型 | タイプ 新政策領域創造型 |
|-------|--|---|--|
| 概要 | 現在の道路行政の重点課題の解決に資する研究 (年間限度額：2,000万円/年) | 技術的課題の画期的な解決を目指す研究 (年間限度額：5,000万円/年) | 政策横断的な視点から道路行政の新たな政策領域を提案する研究 (年間限度額：1,000万円/年) |
| 公募タイプ | 革新的研究調査（FS） | | |
| 概要 | 各公募タイプ（～）において、研究者自らの判断に基づき、研究の本格採択にあたり事前に実行可能性や具体的方途等について検討・分析を行う研究 (年間限度額：100-1,000万円/年) 単年度で実施し、1年後に研究課題の本格採択の是非を審査 | | |

| 公募タイプ | タイプ 特定課題対応型（H22のみ、無電柱化推進で公募） |
|-------|--|
| 概要 | 道路行政における社会的なニーズ等を踏まえた特定の政策課題に対応した研究 (年間限度額及び実施期間は課題に応じて都度設定（H22は5,000万円程度）) |

3) 審査の流れ

- 一次審査（政策領域毎に担当行政官と研究官が実施し、ヒアリング審査付託案件を審査）
- ヒアリング審査（ソフト/ハード分科会別に実施し、二次審査付託案件を審議）
- 二次審査（新道路技術会議を開催し、の結果を踏まえ採択研究を決定）

4) 研究の評価

複数年度にまたがる研究は、研究の見通しや進捗等について、毎年度、中間評価を実施。また、研究期間終了後に事後評価を実施し、研究成果等を評価。優れた技術研究開発の成果に対しては、「優秀技術研究開発賞」として表彰し、公表。